

春のオープンキャンパスに1377人が来場

3月29日、「春のオープンキャンパス」が、長久手・星が丘の両キャンパスで初開催されました。当日は天候にも恵まれ、多くの方にお越しいただきました。

大学説明・入試説明では、多くの来場者が熱心に耳を傾け、学部の学びや入試制度について理解を深めていました。また、学生によるトークライブやキャン

パスツアーでは、キャンパスの様子に触れながら、大学生活を具体的にイメージする姿が多く見られました。企画内容や開催時間は限られていましたが、学生や教職員との交流を通して本学の雰囲気や学びを感じていただける機会となり、充実した一日を過ごされていたようです。



建築学部 2026 優秀作品展

2月24日から3月1日までの6日間、建築学部（創造表現学部 建築・インテリアデザイン専攻）が「2026 優秀作品展」を名古屋市民ギャラリー栄で開催しました。展示されたのは、学内で評価が高かった卒業プロジェクトの設計・制作・論文や、1〜3年次の実習課題の優秀作品。福祉施設や住宅など

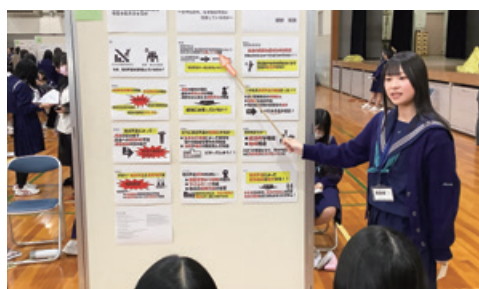
の設計図面・模型、循環型建築に関する論文など、独自の着眼点やアイデア、鋭い考察が光る作品が並びました。会期中、建築家の家成俊勝氏によるミニレクチャーと講習会も開催。今後の学修・研究、設計・制作や、卒業後の進路に活きる学びの場となり、学生たちは互いに高め合っていました。



高1総合探究論文発表会

2月12日に高1総合探究の論文発表会が大アリーナにて行われました。高1生にとっては1年をかけて完成させた論文の内容を一堂に発表する機会であり、それを見学する中3生にとっては来年度の論文作成への動機付けとなる重要な機会です。多大な努力を注いだ調査・研究に裏打ちされた堂々たる

発表を見合うことで相乗効果も生まれています。年々保護者の来場者も増加しており、今回は過去最高の165人の方に見学していただき、多くの聴衆の前で成果を披露することができました。



第89回 高等学校入学式

4月7日、2777人の新入生を迎え高等学校入学式が執り行われました。校長は式辞の中で、変化の激しい時代において、困難に直面しても立ち直り前に進む力であるレジリエンスの大切さを語りました。また、自分自身と向き合い自分らしさを育むこと、他者と支え合いながら学びを深めていくことの重要性を説き、新入生を励ま

しました。理事長からも、高校三年間は自分らしい人生の土台を築く大切な時期であるとし、美しいものに感動する感性、物事の本質を見極める力、そしてしなやかな強さの三つを育みながら、さまざまなことに挑戦してほしいとの温かいメッセージが送られました。新入生たちは、新たな高校生活への思いを胸に、式に臨んでいました。



高1 思索と対話の春合宿

高校1年生は、4月19日から2泊3日でオリエンテーション合宿を行いました。本合宿は、思索と対話を通して自分自身を見つめ直し、これからの高校生活や将来に活かすことを目的としています。本校カウンセラー平野銘子先生による「からだからこころへ」では、リラックスして自分のからだに向き合い、意義な時間となりました。



令和7年度マラソン大会

天候に恵まれた2月4日、マラソン大会を愛・地球博記念公園サイクリングコースにて実施しました。自分の目標に向かって最後まで粘り強く走り、苦しくてもあきらめず、仲間と声を掛け合いながら挑戦する生徒の姿から、体力面だけでなく精神面の大きな成長を感じました。一方、インフルエンザの影響により、走り



令和7年度 中学校卒業式

3月18日、第79回卒業証書授与式が本校大アリーナにて行われ、280人が卒業しました。式辞では校長が「自分とは異なる考え方や価値観に出会い、心が揺さぶられる場面もあるでしょう。皆さんに求められるのは、相手主張の中にある真実や価値を見いだし、思考を鍛えていく姿勢です」と語りかけ、卒業生は「愛知淑徳中学校で学んだ思いやりと勇氣、希望を胸に、それぞれの道へ踏み出します。仲間と共に成長し、自分の可能性を信じ、未来へ向かって歩んでいくことを決意します」と力強く述べました。在校生による送る歌「春風の中で」を聴きながら、卒業生が感極まって涙する様子が印象的でした。

